

リレートーク「災間を生きる都市の今」

能登半島地震―復興デザインへの展望―



20241225 復興デザインセミナー（広島コンベンションホール）
中尾俊介（東京大学大学院工学系研究科建築学専攻）

1 自己紹介

専門：都市史

研究：近世・近代日本の都市と港の歴史研究

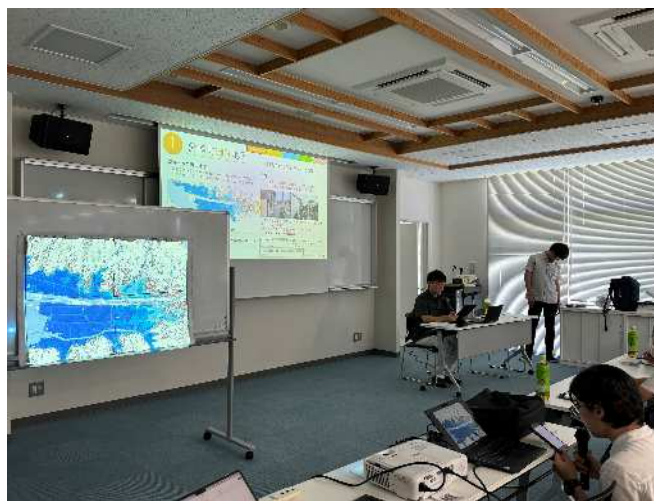
- ・古文書の研究：都市空間の復元／社会構造分析／ネットワーク復元＝内湾社会
- ・建築の実測（共同研究）：山里の景観調査、ヨーロッパの小都市、村落

復興デザイン研究体とのかかわり

- ・大学院演習「復興デザインスタジオ」等の担当（2022年度-）
宇和島市、愛南町の事前復興計画／東京の事前復興とツアー
- ・全国大会委員（同）
U30コンペ／スタディツアー・・・



1 自己紹介



審査委員
乾 久美子 (審査委員長) 浅子 佳英 岡部 明子 上條 慎司 高橋 一平
内藤 廣 羽藤 英二

応募資格
30 歳以下 (2024 年 3 月末時点、ライフイベントによる活動休止期間を勘案する) の学生、
社会人。個人・グループは問わない。1 人につき 1 点の応募とする。

賞
最優秀賞 1 点 優秀賞 2 点程度

提出物
ポスター 2 枚 PDF ファイル、A3 版横使い。ポスターには所属・氏名を記載しないこと。

応募方法
フォームから提出すること (Google アカウントが必要)。
<https://forms.gle/wwwXt52A9LkDsjT46>
フォームを利用できない場合は、応募者全員の氏名、所属、年齢、代表者のメー
ルアドレスを明記し、メールで提出すること。

提出先: nakao@bint.tu.tokyo.ac.jp (東京大学・中尾俊介)

スケジュール
9 月 30 日 応募締め切り
10 月末頃 一次審査結果発表 審査結果はメールで通知する。
11 月 30 日 公開二次審査 復興デザイン会議全国大会会場にて (東京大学)
主催
復興デザイン会議

2 能登半島地震から

震災、復興へのかかわりではない。被災地の調査の機会。大学院生との意見交換。



「1次調査報告書」
復興デザイン研究体、交通・都市・国土学研究室

2 展望：復興デザインへ（1）

（1）伝統的な建造物の被災

重要文化財建造物、重要伝統的建造物群保存地区の被災

11月、県は復興基金による2/3の補助を表明。

重文の場合、所有者の負担は2.5%へ（国85、県市7.5、復興基金5）。

→文化財制度のつよみ

他方、文化財ではない「普通」の伝統的建築の広範な被災

伝建と災害：愛媛県宇和島市津島町岩松の伝建地区と関わって

専門家、調査官は火災と洪水対策を重視し、

岩松には津波被害の記録なし（宇和島は浸水）という想定。

→復興デザインとの接続が必須。

※耐震構造と伝統構法もまた問題（2007年震災と2024年震災）

伝建のめざすもの

修景と観光から、環境、生業の再考、地域生活の再生への移行

※2004年、重要文化的景観の選定制度。

能登の文化的景観？

中世荘園に由来する地区と、人文的な歴史重層

（万葉集→室町時代の再解釈）

= 非・伝建的な地域遺産と体験の可能性

ポスト能登ブーム時代における地域遺産の保存（上時国家の公開中止：2023秋）

→2025年は重伝建選定制度から50年。次世代都市としての重伝建と復興デザイン



上 黒島地区、角海家住宅
下 上時国家住宅

2 展望：復興デザインへ（2）

（2）能登の交通史

古代 渤海、蝦夷への境界としての能登。漂流物のもたらす富。古代駅遞制と街道。

中世 在地武士の台頭、南朝勢力、公家、真宗勢力を包摂する地域へ。

日本海海運も盛ん（鎌倉後期には能登小屋湊＝輪島が著名）

近世 加賀藩＝金沢の領国への編入。七尾の陣屋。口能登あたりまでは一円のか。

近世後期の北前船の隆盛。奥能登をふくむ沿海諸都市との文化混淆。

明治以降、七尾の海外航路／蒸気船の就航。他方「裏日本」呼称は日清戦争ごろ。

戦中 満蒙開拓移民。七七禁令と平和産業への打撃。

降雪と孤立：昭和13年の奥能登孤立と航路開拓、明治38年の豪雪と金石港
戦後復興と引揚者による開拓村

60-70年代 総合開発計画。能登へも大規模なインフラ整備と陸路縦貫

穴水蛸島線の国鉄開通と能登ブーム／珠洲市では人口減少へ

遠洋漁業の衰退、ペレストロイカと対口関係（→現在は…？政治的には変化）

北陸港湾ビジョンと日本海北前船構想2030



能登をみる視点／能登から考える現在

半島、内湾、海峡

半島：島嶼性と「北」。辺境性と先端性。近現代は「孤立」との闘い。

内湾：敦賀湾 - 外浦、内浦 - 富山湾、新潟 - 佐渡と沿海都市群。湊と浦町の連坦。

※隆起した輪島港で生業を失った漁師の方が七尾湾の漁を手伝う事例

※重要港湾による「北前船」の再建？ 復興しつつある港湾のこれから。

海峡：日本海の避難港・輪島（2021年には避難港の調査）、能登芸術祭と珠洲・台湾

※輪島港は能登半島地震の際の復旧拠点化

都市史研究の地域的偏在も明白（包括的な深井甚三氏の研究）。能登に限らない課題。

3 参考

・地域史研究

深井甚三「能登内浦の湊町と富山湾岸地域流通の展開」『近世日本の都市と交通』河出書房新社、1992年。

和嶋俊二『奥能登の研究—歴史・民族・宗教—』平凡社、1997年。

高澤裕一ほか編著『石川県の歴史』山川出版社、2000年

深井甚三編『越中・能登と北陸街道』（街道の日本史27、吉川弘文館）2002年。

・自治体史、概説

鳳至郡編『石川県鳳至郡誌』、1923年。

毎日新聞社編・発行『能登半島』、1960年。

珠洲郡 編纂『石川県珠洲郡誌』,臨川書店,1985

高澤裕一『図説石川県の歴史』河出書房新社、1988年。

輪島市史編纂専門委員会編『輪島市史』第7巻（通史・民俗編）、1976年。

珠洲市史編さん専門委員会編『珠洲市史』第6巻（通史・個別研究）、1980年。

図説穴水の歴史編纂委員会編『図説穴水町の歴史』穴水町、2004年

・文化財関係

公益財団法人文化財建造物保存技術協会『重要文化財上時国家住宅主屋及び納屋保存修理工事報告書』時国健太郎、2014年。

輪島市教育委員会編『石川県指定有形文化財角海家住宅及び土蔵修理工事報告書』、2012年。

『建築史学』63、2014年9月（記念シンポジウム「“町並み”か“景観”か」記録）。

『飯田市歴史研究所年報』20、2022年（地域史研究集会「暮らしのなかの景観」記録）。

・行政指針、関連する解説・論考

石川地理学会編『自然と社会：北陸』25、1961年。

『県勢振興基本方針』（1964年）および『石川県総合開発計画』（1978年）

「北陸港湾ビジョン」（2021）、「北陸港湾ビジョン—日本海北前船構想2030—フォローアップ」（2023）

日本海海難防止協会『日本海主要港湾における錨泊船舶の安全対策に関する調査研究（富山湾、七尾湾、飯田湾及び金沢港周辺海域）報告書』、2022年。

・新聞

「北國新聞」「朝日新聞」「毎日新聞」